

会議名	「2006NEW 環境展—ヒトと地球の未来を守る環境革命への挑戦—」
開催日時	平成 18 年 5 月 26 日（金）；10：00～16：00
開催場所	東京・有明（東京ビックサイト）東ホール
主催者	株式会社 日報アイ・ビー 協賛；環境省、経済産業省、農林水産省、文部科学省、東京都ほか
参加人数(概数)	(動員計画)；約 20 万人
1. 会議の概要 (資料添付)	<p>この展示会は、深刻化する廃棄物問題を含め、社会・経済活動に関する負荷の低減を図るため、これに対応する処理技術、施設、再資源化技術の情報、エコ製品、機器、システムを展示することにより、環境浄化および廃棄物の減量化、無害化、再資源化、また大気・水質・土壌の改善化を進め、更に、省・新エネルギーの啓発を行い、国民生活の安定と環境・廃棄物関連産業の発展を目的として、展示規模 552 社、2357 小間により 5 月 23～26 日に開催された。開催テーマは「人と地球の未来を守る環境革命への挑戦」として、下記の分野について展示された。その中から、直ちに畜産経営に利用できる技術やシステム、畜産技術の研究開発の場に対処できる情報としては次のようなものであった。</p> <p>①NEW 環境（新エネ・省エネ・バイオマス・地球温暖化対策等・環境学術） ②サーマル（焼却・熔融・熱分解・炭化・乾燥・固化） ③環境測定分析・計量・IT・ソリューション ④水環境・土壌（水質浄化・液状物・汚泥処理・土壌汚染対策） 尿処理、 ⑤環境安全（環境衛生・環境保全・安全衛生・作業環境） 消臭、飼料防黴、ふん尿処理、防護服 ⑥収集・搬送（物流・収集・運搬・搬送・容器） 飼料、廃棄物 ⑦有機性廃棄物処理関連、 ⑧バイオマスプロダック&環境対策の包装材・容器・新素材・再生品、 ⑨廃棄物処理・リサイクル（破碎・粉碎・攪拌・選別・減容・圧縮） 粗飼料利用、未・低利用飼料資源活用、飼料圧縮梱包・成型、混合食品残渣選別、 金属選別・除去、脱水乾燥、敷料製造 ⑩屋外展示</p>
2. 今後の研究開発分野として重要と思われる関連課題	<p>低・未利用資源の回収・分別・運搬・成型についての機械施設の完成度が高い中で、たとえば、木質資源を飼料化するための蒸煮処理関連の機械施設の展示は皆無であった。畜産用施設機械システムの中の空白・欠落部分を埋める機械の開発が急がれる。</p>
3. その他の発表課題で関心のあったもの	<p>畜産環境関連技術やシステムは、基本システムや部品が人畜に共用できるものが少なく無いようなので、他分野用の機械装置が量産効果で安くなったものに期待したい。そのための畜産用応用的研究開発に再度目を向ける必要がある。</p>

<p>4. 今後研究開発課題採択に当たって参考とすべき事項等</p>	<p>環境問題に関連する施設機械の分野が拡大しつつあること、畜産経営が規模拡大し、種々の規制が強化されることにより両領域が重なりつつあるように思われる。このため、一般的な環境関連分野仕向けに開発された機械施設を畜産分野に転・応・利用できる可能性が大きくなっている。他分野から畜産分野に進出するメーカーや研究者を適切に誘導する必要性と、そのための情報収集・提供も必要と考えられる。</p>
<p>5. 会議の所感</p>	<p>環境問題への関心が世界的に広まり、今回の展示会へのEC、中国、韓国企業の出展も見られるようになった。参集している人々について、国内からの産業廃棄物関係業界・資源リサイクル企業関係者のほか、一般消費者と見られるご婦人方の姿も見受けられた。このような雰囲気の中で、国内の家畜糞尿処理、飼料資源リサイクル関係者の占める割合が一段と小さくなっているように感じられた。</p>
<p>報告者</p>	<p>針生 程吉</p>